



豊中市教育センター
〒560-0033 豊中市蛭池中町 3-2-1-600
TEL 06-6844-5290
FAX 06-6840-8127
平成26年(2014年)6月13日 第62号

針は 天極をさす

熱心な研修中の部屋は、教室のそれと似ています。

真剣なまなざしに押された講師のほとばしるような言葉が部屋にあふれ、ときに加わるユーモアで笑いも出たりします。講義が終わると講師のもとにかけ寄り問いかける人あり、近くの人と談笑する人あり。よい授業をしたい、わかる授業を子どもに届けたいという教師の熱意が伝わってくる嬉しい一瞬です。

そんな先生方に届けたい言葉が一つ。

「いくらふりまわされても 針は 天極をさす」 (高村 光太郎)

この言葉を、東井義雄さんは次のように述べています。

「私の天極は子どもです。今日もいろいろな雑事や雑音がいっぱい押しかけてきて、私をふりまわしそうですが、どんなときにも、天極を忘れたり狂わせたりしないでいきたい、と自分に言い聞かせています」



教材分析や授業論とともに大切なのが、子どもを見る力です。子どもの表情や机間指導でとらえたノートの記述から、子どもの理解度をとらえることは難しいことですが、とても重要なことです。

授業でも、さまざまな対応においても、まよったときには思い出したい言葉です。



理科展 60周年について



昭和 29 年 (1954 年) に始まった理科展は、今年で 60 周年を迎えます。

60年の年月を振り返ると、当時の子どもたちの生活や自然環境の変化に気づきます。20年から30年前の作品にはスケッチや新聞の切り抜きが多く利用され、近年少なくなった植物や昆虫の採取もみられます。また、資源の再利用や酸性雨などの環境問題にヒントを得た研究や、阪神淡路大震災の年の液状化現象の研究などは、時代を反映していると感じます。

いつの時代にも、身近な事象や動植物に目を向け、子どもの自由な発想や継続して調べる力を生かした研究には、子どもたちのなか



【第 35 回の作品】

に育つ科学の力を感じます。

【昨年の作品】

昨年は、市内の小学校385点、中学校101点、合計486点が展示されました。60周年の今年はどんな作品にであえるか楽しみです。



《理科展スケジュール》

- 教育センター作品搬入・・・9月11日(木)
- 理科展 展示・・・9月12日(金)～17日(水)
(13日～14日は科学教室を開催)
- 入賞者表彰式・・・12月6日(土)



初任者研修・10年経験者研修について

初任者研修(市実施研修)において6回の研修を実施します。豊中市の人権教育・情報教育・支援教育などを初任者の先生方に学んでいただきます。さらに、小学校初任者研修では体育実技研修、中学校初任者研修では不登校対応研修を予定しています。

10年経験者研修については、ミドルリーダー育成の観点から学校マネジメントに関する研修を計画しています。

また、初任者と10年経験者が合同で実施する研修として、初任者が授業研究に係る演習を行うにあたり10年経験者に助言をしていただく内容の研修を予定しています。

前半の講義からは“自分の考えをしっかりと向き合っていきたい”との声がありました。



「今、一番気になっている子」について、交流しました。“ほかの学校の様子を知ることができ、悩んでいるのは私だけではないと元気が出ました”との感想もありました。



言語力向上推進事業「ことばフレンズ豊中」について

今年度、教育センターにおきまして、すべての教科の基礎力となる言語力を向上することを目的として、読書振興課のブックプラネット事業とも連携しながら、推進校5校における校内研究支援等を進めています。



アクション1

校内研究支援

- ① 校内研究年間プログラム立案支援
- ② 授業研究支援（指導案・模擬授業検討会）
- ③ 講師招聘支援など校内研修会支援

アクション2

研究協力員国語の重点支援

（説明文の指導に係る系統性の研究など）

- ① 研究プランの提示 ② 公開授業推進
- ③ 先進事例研修 ④ 公開研究発表

アクション3

教職員研修の充実

- ① 教科国語についての研修強化
- ② 各教科における言語活動の実践に関する研修
- ③ 夏季教職員研修

夏季教職員研修

「ことばの大切さ」をテーマに講演を実施いたします。

- と き 8月1日（金）14:00～15:30
- 場 所 豊中市立アクア文化ホール
- 講 師 元NHKアナウンサー 山根基世さん

【講師略歴】

元NHK放送センター・アナウンス室長。東京大学客員准教授、女子美術大学講師等歴任。「ことばで『私』を育てる」他、著書多数。FMラジオ「感じて 漢字の世界」出演中。

私が、今の子どもたちにぜひ必要だと思うのは、日々の暮らしの中で「隣の人と心を通わせる」ための言葉です。

公式サイト 山根基世 「活動内容」から抜粋



新刊図書案内

教育センター所管の書籍は、学校図書館のパソコンから検索できます。是非、ご活用ください。



組立表現の演技や、エイサー、よさこいソーランなどの踊りについて、指導のポイント、動き方、衣装の作り方などを解説。

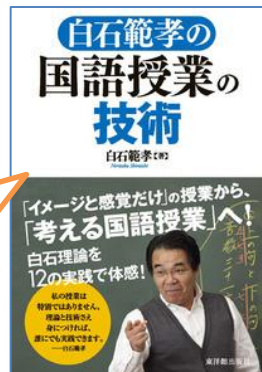


いじめ・体罰に関する事件を取り上げ、過去の教訓をもとに、これからの学校の対応について専門家が提言。



「学校を変える力」とはいったい何なのか？「組織力」は「一糸乱れぬ」か？7/29、著者によるリーダーシップ研修も実施します。

5/30、7/28、11/13 著者による国語研修を実施します。～『ことばフレンズ豊中』～



「イメージと感覚だけの授業から、考える国語授業へ！白石理論を12の実践で体感！」

先生方から受ける相談より

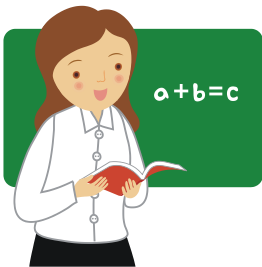
落ち着いて授業に取り組めるクラスづくりの工夫



学校で先生からこのような相談を受けることがよくあります。
「クラスが騒がしくて落ち着かないのですが、どうすればいいでしょう？」
お話をうかがい、授業を見学させていただくと・・・

小学 2 年生の算数の時間です。先生は教科書を拡大した図を黒板に貼って、説明をしています。しかし子どもたちは「どこに載ってるんやろ？」と言いながら教科書をめくっています。授業をきいている子どももいれば、先に問題を解いていたり、友だちとしゃべったりしている子どももいます。時々、鉛筆を削るために席を立つ子どももいます。クラスがだんだん騒がしくなり、授業をきいていた子どももソワソワしはじめました。

先生は一生懸命に授業をされていましたが、たしかにクラスは騒がしく、落ち着きがないようでした。子どもたちが落ち着いて授業に取り組めるようにするためにはどうすればいいのでしょうか？以下にいくつかの支援のヒントをご紹介します。



落ち着いて授業に取り組めるクラスづくりのキーワード

- ① 授業の流れ（見通し）
- ② 具体的でわかりやすい指示
- ③ 授業中のルール
- ④ すっきりした教室環境

- ① 授業の流れについて見通しを持たせることは、子どもの落ち着きにつながります。
- ② 何をしたらよいかわからなければ、子どもの集中力は続きません。「〇〇ができた人は、△△をしながら待つ」など、具体的な指示をその都度しっかり伝えましょう。（板書を色分けすることも有効です）
- ③ 「授業中は立ち歩かない」「発言するときは手を挙げて待つ」など、授業中のルールを決めましょう。ルールがあることで、子どもたちは行動しやすくなります。
- ④ 目に入るものがたくさんあると、集中しにくいものです。黒板の周りは掲示物を減らしてすっきりさせることで、板書に注目しやすくなります。また、配慮が必要な子どもに対しては、座席位置を工夫することも有効です。（後ろの方や窓際の座席は避けるなど）

今回は、子どもたちが落ち着いて授業に取り組める工夫について考えてみました。「騒がしい」にもいろいろな要因が考えられるため、さまざまな視点から状況を見ることが必要となります。次回はまた違った視点で考えてみたいと思います。

※今年度の教育相談ワンポイントシリーズでは、先生方からよく受ける相談についてとりあげていく予定です。

※「わかりやすい教室づくりのポイント」については、とよなかスクールネット「気になる子どもへの支援のヒントー相談事例集ー」P.40～41 に詳しく紹介されています。